

4月29日(日)～30日(月)

「海洋パイオニアスクールプログラム3校連携「森里海連環学」

「森里海連環学」へ参加しました。このプログラムは、津和野高校のはたらきかけにより、吉賀高校と益田高校の3校の環境に興味をもつ生徒の現地学習会です。本校からの参加は昨年引き続き2回目になります。今年も春、夏、秋の3回で予定されています。今回は、春の学習会で海の学習をしました。1日目には、小浜海岸で、ヒラメの稚魚採集を行い、午後から益田高校生物教室で採集生物の観察や分類および生態の講義も行われました。2日目には、津和野高校へ移動し、京都大学名誉教授の田中克先生より、「森里海連環学」についての講義を頂きました。本校からは3名の生徒が参加しました。

参加者の感想の一部を紹介します。

2日目の講義で、森や川、海の強い繋がりを知ることができました。漂着ゴミなど身近な問題も知ることができました。1日目で稚魚を最終するために実際に海に行ったときにも、多くの漂着ゴミがあり、ゴミ問題の深刻さが伝わってきました。特に印象に残っているのは、魚が成長するうえで、森、川、海のつながりが大きく関わっていることです。また、外敵のいない田んぼで産卵し、川で成長する魚もいます。稲作をする際には、無農薬で栽培することはとても重要です。田んぼは稲を作るだけでなく、多くの生物が生きていくのに必要だからです。自然に配慮した田で、多くの生物が成長することは、地域の自然を保つための好循環になります。森、川、海のつながりは、人の生活やあらゆる生物と関わっています。それは決して、人間の都合だけで断ち切ってはいけないものだと思ふことができました。森と海はつながっているということを忘れず、これからの地域の自然を考えていきたいです。



今回、森里海連環学で学んだことは、海、森は互いに関係し合って良い自然環境ができています。これまで私は、海と森の関係をあまり考えてきませんでした。しかし、今回の学習を通して、循環の重要性に気づかされました。ヒラメの稚魚採集では、ヒラメ以外の様々な生物が採集できたことで海の中の生物多様性に驚きました。その場所の生物の奥深さを知ることができて感激し、自分でも取り組んでみようと思いました。京都大学の田中先生のお話しでは、環境が循環していることを具体的に学ぶ

ことができました。今後の部活動でも積極的に挑戦し、疑問がある所はその都度質問していきたいと思
います。次回の連環学が楽しみです。

1日目には、小浜でヒラメの稚魚の採集と選別、個体の測定、ヒラメについての説明、2日目は、「つなげよう、ささえよう森里川海」活動についての話を聞きました。ヒラメの稚魚の採集では、砂浜で何度か網を引いても稚魚は採れなかったけど漁港内では数十匹の稚魚が採れました。去年は砂浜でたくさん採れたそうですが、今年は砂浜では採れず、年によって稚魚が生息する場所が採集できた場所で確認することができて、一年で小浜の海の変化があったことが分かりました。益田高校に戻ってからはヒラメについて学習しました。ヒラメは異体類で、仔魚から稚魚になるときに片目が移動して、体の形が変化することが分かりました。ヒラメは生まれた時から、成体と同じ姿をしていると思っていたので、とても驚きました。変態は、姿や形だけでなく、食性や生息する環境も変わるということを知りました。2日目の森、里、海の関係についての講義では、全国各地で自然環境を守ったり、改善するための取り組みを行っている自治体や団体、個人がおられることを知りました。その中でも、焼き畑農業の話が印象に残っています。中学生の時、ブラジルで焼畑農業をするため、森林の減少により地球温暖化の一因となってることを学習しました。したがって、焼畑農業については、良い印象がありませんでした。今回の話では、自然の循環を考えて、畑として使う期間と植物を育てる期間を考慮すること。植林も3年で実る栗の木を植えることで、住宅地に侵入していたクマなどの野生動物が人里に現れることがなくなり、人々の生活にも良い影響を出ていることを知りました。何より、森が良くなることで、そこから川が良くなり、海が豊かになることを学びました。



次の夏、そして秋の学習会が楽しみです。

益田高校生のみなさん。次回からの参加も可能です。夏の学習会も改めて募集しますから、楽しみにしてください。是非、都合をつけて参加しましょう。